高等教育研究センター
Research Center for Higher Education
Newsletter No.020

2013.5

■ 信州大学の学生について
■ FD活動報告
■ センターからのお知らせ
■ スタッフからひとこと

信州大学 | 高等教育研究センター
SHINSHU UNIVERSITY

信州大学の学生について

各学部と先生方、職員の皆さまのご理解をいただき、2011年度より、新入生調査（全学部1年生対象・2011年7月）、学習時間調査（全学部1年生対象・2012年7月）大学生調査（全学部4年生対象・2012年12月・未分析）のそれぞれを、定期的に実施できるようになりました。センター員一同、厚く御礼を申し上げます。今回は、新入生調査と学習時間調査の結果をここでお知らせし、なぜ課題を出すことが効果的か、そして指導の中身は何になるのか、の2点について、考えてみたいと思います。

広がる学習習慣の差

2011年度の1年生（現在の3年生）が高校3年生の時の、授業時間以外の学習時間は、図1のようになっています。授業外で1週間当たり20時間学習していた学生が35%いる一方で（頼もしい数字です）、0~5時間しか学習していなかった学生が27%もいます。つまり、高3時に1日に1時間も学習していなかった学生が、この学年に限って言えば、4人に１人という割合で存在しているのです。

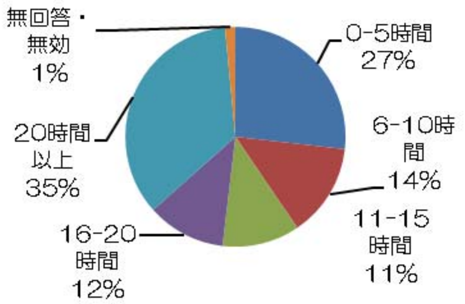

図1　高校3年時の学習時間（新入生調査2011年7月実施、1706人回答）

2012年に全学教育機構で実施した1年生の学習時間調査でも、同様の傾向がさらに強化された形で見られます。授業以外での学習時間が1週間当たり5時間に満たない学生が70%にのぼり、6時間から10時間は勉強するという学生（18%）を大きく引き離しています（図2）。「大学に入ると勉強しなくなる」という言説は、信大にもある程度当てはまっているようです（残念なことです）。

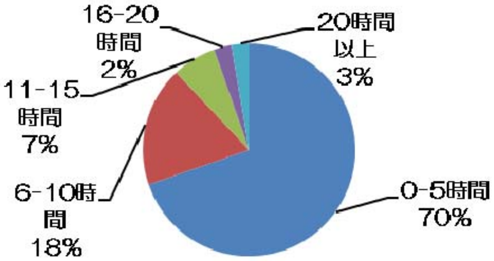

図2　学生の学習時間（学習時間調査、2012年度、1年生1947人回答）

学習時間を見るだけでも、学生が自分で「自主的に」学習するのが難しいことは想像に難くありません。この2つの調査は対象となった学年が1年ずれているため、直接の比較はできませんが、もしも、学生の傾向が似ていると仮定した場合、高3時に殆ど学習しなかった学生が大学に入学して学習時間が長くなるということは考えられませんし、自主的に学ぶということは、さらに難しいと考えられます。

さらなる分析も試みましたが、学習時間の多少を決定する要因を抽出することはできませんでした。学部別でも、入試形態でも、有意差は見つけられませんでした。唯一関係が見られたのが、読書量と性別です。一カ月間の読書量と学習時間には正の相関があり、平均すれば女子学生の方が学習時間は長くなっています。

宿題を出せば学生は学習するようになるか

宿題が出る授業の数別に学習時間の分布を見てみると、わずかに、宿題が出る授業が多い方が、学生が学習する傾向が見られます（図3）。ただし、ここからは、学習意欲のある学生が宿題の出る授業を積極的に取るのか、宿題があるから学生が学習するようになるのか、のどちらかを特定することができません。宿題が出ていても殆ど学習しない学生が一定数いることから、以下の点を指摘することができます。宿題が出ても、宿題をきちんとやったかどうかが問題にされない限り（たとえばその宿題が小テストの範囲になるとか、宿題の成績が最終成績に反映されるなど）、学生の方には時間をかけて宿題に取り組む理由がないということです。

つまり、意地の悪い見方をすれば、学生は、「勉強しなくとも単位をもらえると思っている」わけであり、実際に、勉強しなくとも進級できるし卒業もできてしまっている、という実態があるのではないかと思われます。

まず学生に教える必要のあること

私たちは、学生の学習意欲を信じて、内発的動機づけ（その分野や学習そのものの面白さをアピールして学生に学習を促すこと）に努力するだけでなく、外発的動機付け（宿題をしなければ点数が取れないなどの賞罰システム）を上手く使わなければ、学生を学習に向かわせることができないこと、また、学習習慣そのものを教える必要があることなどが、この調査結果からは見えてきます。

授業内容や方法を改善するだけでなく、シラバスの表記や評価体系を明確に学生に示し、示した通りに実践することが求められるのは、ここにその理由があるのです。つまり、学生に（特に初年次生に対して）私たちがまず実践すべきこと

で、「学生は常に学習した上で授業に臨む必要があること」、そして、「それを怠れば、学生として成功できないこと」の2つを、学生に身をもって経験してもらうことです。この習慣を身けてこそ、学生は「自主的に」自分の興味を深めていくことができるのです。

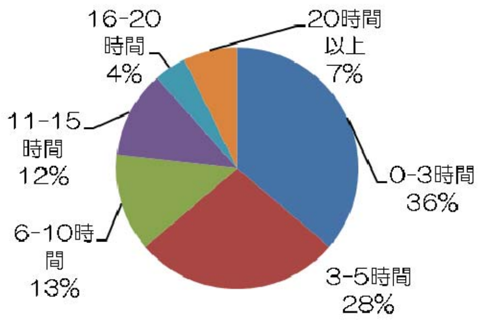

図3-1　学生の学習間：宿題が出る授業「なし」（69人）

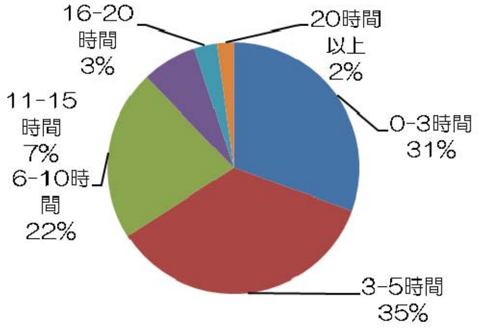

図3-3　学生の学習時間：宿題が出る授業「3-4科目」（871人）

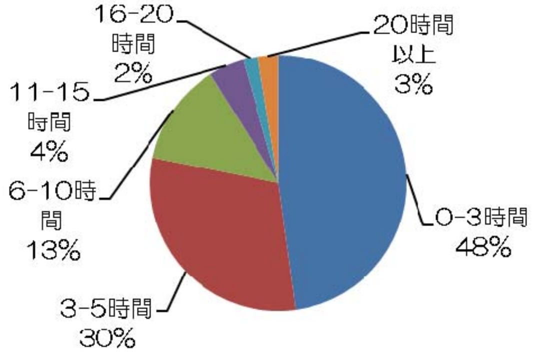

図3-2　学生の学習時間：宿題が出る授業「1-2科目」（790人）

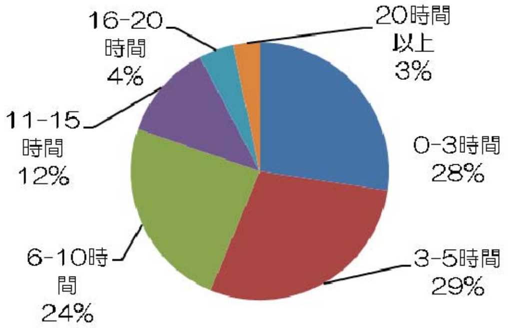

図3-4　学生の学習時間：宿題の出る授業「5科目以上」（209人）

（担当：加藤善子）

活動報告

平成25年度信州大学新任教職員研修においてFDを行いました

▲松本キャンパス会場の様子

4月2日（火）、平成25年度信州大学新任教職員研修の一環として「信州大学の教育について」をテーマとしたFDを高等教育研究センターが担当しました。当日は松本キャンパス理学部大会議室を主会場として各キャンパスに遠隔配信を行い、約30名の新任教員が参加しました。

アイスブレイキングから始め和やかな雰囲気になったところで、赤羽教務担当理事から歓迎の挨拶があり、続いて、小池高等教育研究センター長からGPA制度の説明がありました。次に、同センター加藤鉱三教授から、中教審答申の「学生に勉強させる」及び「『学位授与の方針』で大学が評価される」という２大テーマについて、またそれが教員個人にどのように関係があるのかについて説明がありました。続いて、同センター加藤善子准教授から、信州大学の学生について、平成23年度に実施した新入生調査の結果を基とした情報提供を行いました。最後に、同センター副センター長矢部正之教授（e-Learningセンター研究開発部門長）から、e-Learning の効用と利用の仕方について説明がありました。

新任教員にとっては信州大学の教育に関する重要事項をまとめて知る機会となり、またグループワークや発表も行われ、実りあるFD研修となりました。

◆◆当日の配布資料は高等教育研究センターウェブサイトにてご覧いただけます⇒http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/rche/

お知らせ

高等教育研究センターでは，平成２４年度に引き続き，平成２５年度のFD活動の一環として，各部局からのご要望に応じて，部局に伺う形でのFD活動を行います。ご希望がございましたら，下記担当（学務課教務グループ）までご連絡ください。

スタッフからひとこと

今年度より，理工学系研究科・総合工学系研究科の両研究科を跨ぐ5年一貫教育プログラムとして，学内版リーディング大学院「サスティナブルエネルギーコース」が開始されます。そして，「平成25年度博士課程教育リーディングプログラム」の公募が開始されました。是非，今年度こそは採択されることを祈っています。（学務部学務課大学院室主査　窪田実文）

信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 高等教育研究センター
■〒390-8621　長野県松本市旭3-1-1
■TEL：0263-37-2194（担当：学務部学務課教務グループ）
■MAIL：campus-rche_info@shinshu-u.ac.jp
■URL：http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/rche/